

資料2

2005年度 4年生の家庭での動物飼育状況

中川美穂子調査報告

2005年2月から3月にかけて 西東京市立小学校10校、小平市立小学校2校の新四年生894名の家庭での動物飼育状況を調査した。「飼育していない子」は現在53%になっている。飼育していない子には昆虫類やマリモなども「飼育している」と言った子も分類している。

イヌや猫は子の年齢があがるにつれて16%に増加している。以前は多かった小型ほ乳類は、現在5%に減少している。小鳥も殆ど飼われていない。現在、魚を飼育する子が最多であり5人に1人が飼っている。

魚類は水槽の中にいるため衛生的だと思われ、また世話も毎日ではないため歓迎されていると想像される。同じ理由からか、学校の教室内飼育でも魚は最多の種類である。しかし、子どもを育てるには、抱くことができ、情を通わせることができる動物が大きなはたらきをすることが認められている*1。現在の子どもたちは 飼育経験を持たない子が半数以上であり、飼育しても触れない水生動物の場合が多い。これには地域差は殆どないと思われる。親が子どもの成長を考えて、有効な環境を与えようとしない現在は、学校での「ほ乳類やチャボ」の飼育が以前と比べようもないほど重要な意味を持ってきている。

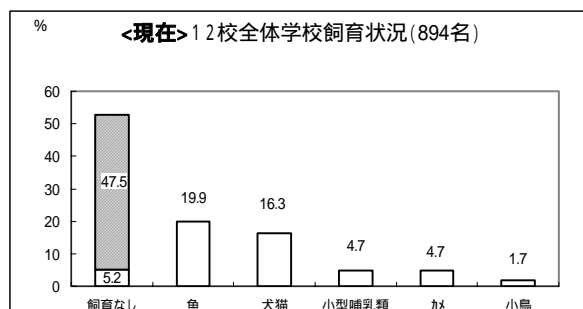
家庭での動物飼育状況

学校名	西東京市立							小平市立			合計		
	保谷二	中原	住吉	けやき	上向台	向台	保谷	本町	柳沢	東伏見		小平10	小平15
生徒数	73	59	49	111	75	116	58	48	64	101	70	70	894

<現在>全校人

母数 894 * 計 %

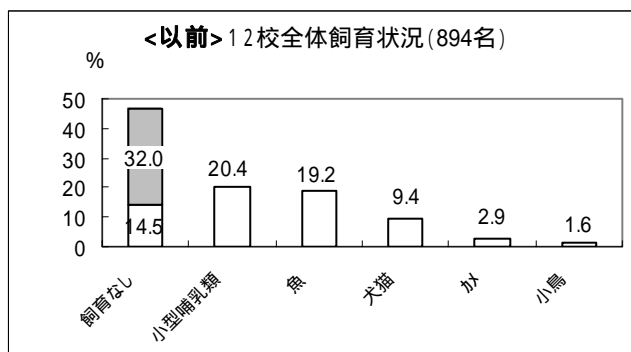
飼育なし	471	飼育なし	5.2	47.5	52.7
魚	178	魚	19.9		
犬猫	146	犬猫	16.3		
小型哺乳類	42	小型哺乳類	4.7		
か	42	か	4.7		
小鳥	15	小鳥	1.7		
合計	894	飼育あり 計			47.3



<以前>全校人

母数 894 * 計 %

飼育なし	416	飼育なし	14.5	32.0	46.5
小型哺乳類	182	小型哺乳類	20.4		
魚	172	魚	19.2		
犬猫	84	犬猫	9.4		
か	26	か	2.9		
小鳥	14	小鳥	1.6		
合計	894	飼育あり 計			53.5



* 飼育なしの白抜きのグラフには以下のものを含む

昆虫・カブトムシ・クワガタムシ・コオロギ・バッタ・カマキリ・スズメシ・コガネムシ・幼虫・ヤコ・カナブン・ダンゴムシ・カタツムリ・アリ・テントウムシ・青虫・トンボ・蝶・セミ
カエル・オタマジャクシ・トカゲ・ヤモリ・イモリ・カナヘビ・ウーパールーパー
サリガニ・エビ・カニ・サワガニ・カブトエビ・ヤドカリ・タニシ・貝・イソギンチャク・マリモ

*1 中川美穂子 03年 家庭での動物飼育 「学校飼育動物と生命尊重の指導」教育開発研究所